

THE 茶内小 TIMES

令和4年(2022年)4月25日発行 VOL 4

授業改善で勝負ができる教師になるために

浜中町立茶内小学校長 富田直樹

次のタイムラインは、小学校4年生の学級担任、保里先生のある1日です(複数の実話を参考に作成した仮想のもの)。保里先生の1日を御覧になって、どんな感想をもたれたでしょうか。また、このタイムラインにタイトルを付けるとしたら、どんなタイトルになるでしょうか。

時間	業務内容等
7:20	○ 出勤。職員室で荷物を整理して、すぐ教室へ。窓を開けて空気をフレッシュに。あっ、そういえば、2時間目の国語のプリントを印刷しなきゃ。
7:40	○ 早い子どもは登校してくる。挨拶を交わしつつ、前日にやり残した仕事を片付ける。
7:55	○ 不登校ぎみだったAさんが保護者と登校。保護者としばし話をする。
8:15~ 8:30	○ え〜と。8時15分から勤務時間(ということらしい)。朝学習。漢字の練習や読書など。担任にとっては、体調の気になる子どもへのケアや連絡帳の確認などをこなす時間。
8:30	○ 朝の会。出欠をとる。日直の進行を見守りつつ、宿題のチェックもする。
8:40~12:10	○ 授業(4コマ)。たまにB君は情緒不安定で、教室を飛び出す。休み時間もなかなかトイレにも行けない。今日も、数の少ない重たいICT機器を持ち運ぶはめに。
12:10~12:50	○ 給食。配膳係がちゃんとできているか、やけどや嫌がらせはないかなど、目が離せない。1人アレルギーの子どももいるので、毎日献立も細かくチェックしている。自分の分は10分もかからず、早食い。その後、授業で提出してもらったシートのコメント書き。「よくできました」のハンコだけだと、前にクレームがあったしなあ。
12:50~13:10	○ 掃除。担当場所を巡回。すぐにふざけるやんちゃな子どもたちへの目配りは欠かせない。
13:10~13:30	○ 昼休み。担任はここでやっとコーヒーを飲めるときもあるが、今日は5時間目の理科の実験の準備に取りかかる。
13:30~15:10	○ 授業(2コマ)。眠くなる子どももいる。そりゃそうだよね。
15:10	○ 帰りの会。
15:20~15:30	○ 校門で下校の見守り。
15:45~16:30	○ 一応、休憩時間ということになっているらしい……。丸付けをしたり、コメント書きをしたり。私も含めて誰も取っちゃいない。
16:30~19:00	○ 行事(PTA主催のバザーなど)の準備。掲示物は簡単でいいと思いつつ、他の学級にも合わせてある程度のものにはしなくちゃ。16時45分までが勤務時間だけど、その存在を忘れるところだった。翌日の授業準備も必要だけど……。おっと、教育委員会に提出する書類、締め切り、過ぎてる？
19:00	○ 帰ろうとしたところ、ある保護者から電話。結局1時間近くかかった。やれやれ。
20:00	○ 退勤!お疲れ様、自分。

ここまで目を通していただき、このタイムラインのタイトルは思い浮かんだでしょうか。

私であれば、「世界一のノンストップ労働？」とでもするでしょうか。

実は本校の教職員も保里先生と似たような勤務状況になっています。

皆さんも御存知のとおり、令和元年度から「学校における働き方改革」が本格的に始まりました。本改革が始まった背景は、①長時間勤務が常態化して精神疾患や過労死など、健康や命に関わる問題が深刻化していること、②「Society 5.0 時代」を生き抜いていく子どもたちはAI（人工知能）では代替できない力（創造性、深い思考力、問題解決力など）を身に付ける必要がありますが、教師は日々の長時間勤務で疲れ果て、目の前のことに追いまわられて物事を深く考えられない状況に陥っており、十分な学びの保障が危惧されていること、③教員採用試験の競争倍率は年々低下し、「教員不足」が深刻化するなど、企業との人材獲得競争の真っ直中にあること、が考えられます。

また、「学校における働き方改革」の目的は、学校として目指すゴールを全教職員が共有し、その実現に向け、ゴールの実現に関係のある取組については充実させ、ゴールの実現に関係ない取組や関係の薄い取組は思い切ってやめたり、削減したりするなどして、教育の質を向上させることです。もっと端的に言えば、「学校における働き方改革」の本丸は、授業改善であり、質の高い授業を子どもたちに提供することです。

本校の勤務時間は、8時00分から16時30分まで、途中15時30分から16時15分の休憩時間を挟んだ7時間45分です。下校バスが14時45分に出るとして、退勤時間までの1時間（休憩時間は含まない）で、質の高い授業を提供するための準備をしなければなりません。

しかし、小学校は教科担任制ではないため（一部地域では複数教科で専科教員が指導）、一人の教員が最大11教科等を担当し、その他、学校行事や委員会、クラブ活動などがあり、退勤までの1時間で、8つ、9つの授業準備をし、更に質の保障も求められています。果たしてこんなことは可能なのでしょうか。

教員は、どんなに仕事量が多くても、子どもを思えば早朝から夜遅くまで頑張っています。本校の教職員も例外ではありません。でも、これからは、限られた時間の中で、魅力的な授業づくりを行い、更に多種・多様な課題の解決が求められます。先ほどの保里先生の現状を考えたとき、今求められている授業づくりや、それを行うための自己研鑽の時間が、自分だけの努力で確保できるでしょうか。

学校だよりの1号に、今年度のグランドデザイン（学校経営方針）を示しました。重点教育目標を実現するために、私たちが取り組む「これだけは」の中に、「学校における働き方改革の推進」として、2つの項目を示しました。

1つ目は、本校独自の「アクションプラン」（業務改善の方向性と具体策）を作成し、定期的に業務改善について協議する「コアチーム」を立ち上げることです。2つ目は、先ほど示した働き方改革の背景や目的を常に意識し、主体的に業務改善に努め、自分と向き合う時間（本を読んだり研修会に参加したりして授業改善の知識を身に付ける、他校の教職員や教職員以外の人たちとの交流を通して人としての幅を広げるなど）をつくり、その成果を子どもたちに還元（子どもと向き合う時間）することです。

本校に着任して1ヶ月が経とうとしていますが、本校は働き方改革について「後進校」だと感じています。本来であれば、保護者や地域の皆さんに担っていただくことを教職員が前面に立って取り組んでいる、ねらいが不明確なまま例年通りの取組が行われている、子どもたちに任せるべきところでも、教員が目立っているなどの場面がたくさん見られます。教職員の働き方改革に対する意識を今以上に高めるとともに、一つ一つの課題の改善を図り、教員が授業づくりに集中できる環境をつくっていきたいと考えています。そして、「授業で勝負できる教員」として自信をもって教壇に立ち、「未来社会の創り手」である子どもたちに必要な質の高い授業が提供できるようになってほしいと願っています。

学校における働き方改革は、学校だけでできることではありません。埼玉県の伊奈町では、保護者、地域住民、教職員がワークショップを行い、学校が担っているもので減らせるもの、保護者、地域と分担・協業できるものはないか、アイデアを出し合っています。本校でも同様の取組を行いたいと考えています。本校の教員を「授業で勝負できる教師」にするために、お力添えをよろしくお願いいたします。

